

■ HRD FINE ART 展覧会開催のご案内 ■

## In Front of Behind

インゴ・バウムガルテン＋鈴木 崇

- 会場： HRDファインアート  
（京都市上京区上御霊豎町494-1）
- 会期： 2025年 2月8日（土）～ 3月29日（土）
- 時間： 木曜日 11:00～15:00  
金・土曜日・2月9日（日） 11:00～19:00
- 休廊： 日～水曜日（事前のアポイントにより観覧可能）  
2月9日（日）はオープン（11:00～19:00）

オープニングレセプション：2月8日（土） 17:00～

### 【展覧会概要】

HRDファインアートでは、2025年の最初の展覧会として、2月8日から3月29日までの会期で、韓国ソウル在住のドイツ人美術作家、インゴ・バウムガルテンと京都出身・在住の美術作家、鈴木崇による二人展「In Front of Behind」を開催いたします。

インゴ・バウムガルテンは1964年ドイツ・ハノーファー生まれ。カールスルーエ芸術アカデミー、パリ高等造形美術学院などで学んだのち、1999年に東京芸術大学大学院にて修士号を取得。2008年からは韓国ソウルのホンイク（弘益）大学の美術学部で教鞭を執るかたわら、絵画を中心とした制作活動を精力的に展開しています。

鈴木崇は1971年京都出身。米国ボストンのアート・インスティテュート・オブ・ボストンを卒業したのち、ドイツ・デュッセルドルフのデュッセルドルフ芸術アカデミーで学び、トーマス・ルフやトーマス・シュトゥルツなどのドイツ現代写真の作家たちから薫陶を受けます。現在は京都を拠点に活動を行い、その作品は東京国立近代美術館や京都国立近代美術館にも所蔵されるなど高い評価を受けています。

バウムガルテンの作品は、建築物とそのフォルムやカラーを中心的な主題としています。特に近年は拠点としている韓国の独特な都市景観や建築にフォーカスを当て、リアリズムをベースとしながらもどこか幻想的な感覚を湛えた絵画作品を数多く制作しています。その作品からは、ありふれた、陳腐なものの中に「美」を見出すような意識に関わる思考も引き出されるでしょう。

鈴木作品は、写真を表現媒体としながらも従来の写真表現から自由に逸脱する多彩な表現を展開しています。それらの作品は、近年特に幾何学的な形態への関心が強く感じられ、イメージが持つ象徴性や意味性、そしてそれに対する人間の認知に関する問いが様々な角度から投げかけられています。

本展は、図像や形象そのものに対する関心を強く持つ2人のアーティストの作品を通じて、「見えているもの」と「その背後にあるもの」との関係性にまつわる新鮮な視点を提供します。また、日本を經由して韓国にたどり着いたドイツ人ペインターと、アメリカとドイツで写真を学んだ日本人アーティストという、奇妙にクロスオーバーするような背景とキャリアを持つ2人のアーティストの作品から、東洋と西洋、写真と絵画という二項対立的テーマへのアプローチを試みる展覧会でもあります。ぜひご高覧ください。

\*\*\*

なお、鈴木崇は2025年1月18日から滋賀県立美術館で開催されるグループ展「BUTSUDORI ブツドリ：モノをめぐる写真表現」に出品します。こちらをあわせてご覧ください。

### 【アーティストからのメッセージ】

私の制作は、自らを取り巻く環境を認識することからスタートしている。現在のそれは韓国、特にソウルという都市だ。私は社会の変容に関心があり、その変容が都市景観にどのように反映されているか、そしてそれが機能性と外貌の関係性としてどのように表出しているかに関心がある。その意味においては、よく知られたランドマークや観光名所などにはあまり興味が湧かない。通常であれば見過ごされてしまうような、ありふれた、典型的な場所や背景、いわば「背後」にあるもののほうに惹き付けられる。

私の絵画は、こうした思考を反映したものであると同時に、自律的な美的価値をも備えたものとして成立させたいとも考えている。構図と色彩を通常の視点から少しずつすることによって。

—— インゴ・バウムガルテン

\*\*\*

ものには必ず形がある。形が分からないものを想像することは難しい。

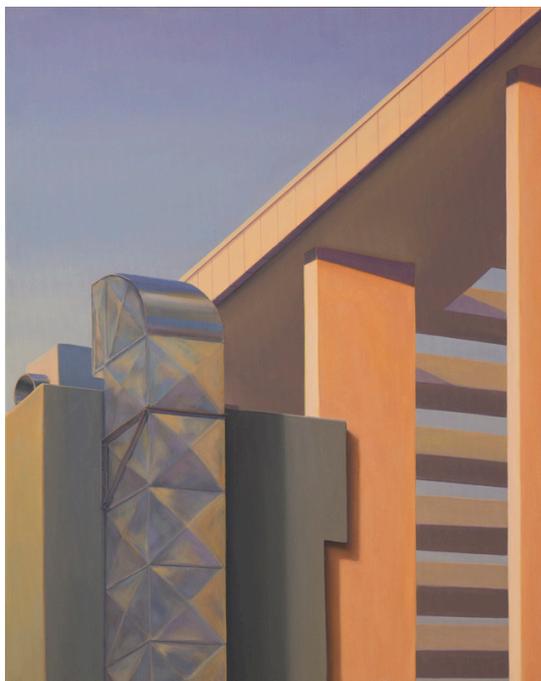
私にとっての写真とは、目に見えている世界を切り取り、元あったものとは違う形と意味を与える行為であり、写真で撮ったそのイメージを見ることは、新たに与えられた形を見てその意味を探ることなのだと思っています。

—— 鈴木崇

【展示作品・参考作品】



インゴ・バウムガルテン 《untitled》  
油彩／キャンバス 70×50cm 2024年

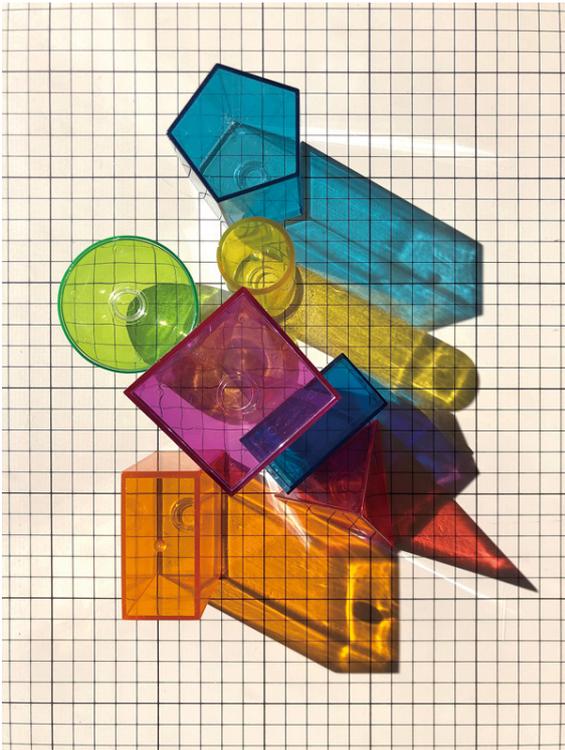


インゴ・バウムガルテン 《untitled》  
油彩／キャンバス 100×80cm 2019年



鈴木 崇 《Fictum cp-0262》

アーカイバルピグメントプリント 44.5×121cm 2018年



鈴木 崇 《lumière géométrique 12R》

アーカイブピグメントプリント 20×15cm 2024年

## 【作家略歴】

### インゴ・バウムガルテン Ingo BAUMGARTEN

- 1964 ハノーファー（ドイツ）生まれ  
 1992 カールスルーエ芸術アカデミー卒業（国家試験）  
 1999 東京芸術大学大学院修士課程修了  
 現在、韓国ソウル在住

#### 主な個展

- 1994 「Culture: Culture around — around Culture」 Museum of Setúbal（セトウバル）  
 1995 Galerie Martina Detterer（フランクフルト）  
 1998 Casa Gallery（東京）  
 Haus der Kunststiftung（シュトゥットガルト）  
 1999 Artspace Gento（東京）  
 Galerie der Stadt Kornwestheim（コルンヴェストハイム）  
 2002 「Our Town」 SPHN Gallery（ベルリン）  
 2003 「City: Matter of Opinion/View」 Galerie Saalbau（ベルリン）  
 2005 「The Beauty of the Common」 Galerie Abt（シュトゥットガルト）  
 MAJT（リール）  
 2006 「Close Up」 ギャラリー・ルデコ（東京）  
 「Town at the Lake」 Zeppelin Museum Friedrichshafen（フリードリヒスハーフェン）  
 2007-08 「Heterogeneous Aesthetics」 Kaoyuan Art Center（高雄）  
 「no title」 Bruno David Gallery（セントルイス）  
 2008 「Forms of City」 Art Gallery of Kunshan University（台南）  
 2010 「Ingo Baumgarten」 Ronam Gallery（ソウル）  
 2013 「Korean Houses - Painting」 Eugean Gallery（ソウル）  
 2015 「point of view」 Hanmi Gallery（ソウル）  
 2016 「Perception」 Gallery Atelier Aki（ソウル）  
 2017 「Urban Details」 United Art Museum（武漢）  
 2018 「hard edges soft colors」 Gallery Plan D（デュッセルドルフ）  
 「passages」 Gallery Chosun（ソウル）  
 2019 「space & color」 Tongin Gallery（ソウル）  
 「something behind」 United Art Museum（武漢）  
 2021 「just painting」 JJ Gallery（ソウル）  
 2022 「afternoon, four o'clock」 Project Space MIUM（ソウル）  
 2023 「Compromises」 Imsoobin Gallery（ソウル）

#### 主なグループ展

- 1990 「Not British Art of the Nineties」（ノリッジ）  
 1994-95 「Kunst-Pro-Thesen」 Art Museum Düsseldorf（デュッセルドルフ）

- 1995 「Pensées du dehors」 Contemporary Art Center La Ferme du Buisson (ノワジエル)
- 1997-98 「18th Touring Exhibition of the Art Foundation Baden-Württemberg」 (バーデン＝  
ヴュルテンベルク)
- 2003 「Die Grosse」 Kunstausstellung NRW (デュッセルドルフ)  
「Citylandscapes」 Galerie Haus Schneider (エットリンゲン)  
Zeitgenössisch (ベルリン)
- 2008 Bruno David Gallery (セントルイス)  
Galerie Abt (シュトゥットガルト)
- 2012 「Totally German」 Kimkim Gallery at Pool (ソウル)
- 2013 「SETEC Art Show」 (ソウル)  
「Der Blick zurück nach Vorn」 Galerie Abt Art (シュトゥットガルト)
- 2014 「Universal Studios Seoul」 Seoul Museum of Art (ソウル)
- 2015 「25 Jahre 34 Stipendiaten」 ZF Kunststiftung - Zeppelin Museum Friedrichshafen  
(フリードリヒスハーフェン)  
「Visible Air」 Museum of Kyunghee University (ソウル)
- 2016 「International DMZ Art Festival」 (カンウォンド)
- 2018 「Pyeongchang Culture Olympic DMZ Art Fiesta 2018」 (カンウォンド)
- 2019 「Take ( ) at face value」 Korean Cultural Centre Australia (シドニー)
- 2021 「The Front Side」 Odusan Unification Observatory (パジュ)
- 2023 「Future Lies Ahead-Daejeon 1993/2023」 Daejeon Museum of Art (デジョン)
- 2024 「Marcher à l'étoile」 Hongik Museum of Art (ソウル)

#### 助成／レジデンス／受賞

- 1987-88 French-German Bureau for the Youth (パリ)
- 1991 Erasmus-Exchange Program of the EU for Norwich (ノリッジ)
- 1993-94 Scholarship of the Institute for Higher Studies in Visual Arts (パリ)
- 1996 Scholarship of Art-Foundation Baden-Württemberg (バーデン＝ヴュルテンベルク)
- 1996-99 Scholarship of the Japanese Government (東京)
- 2005 Culture Foundation of the ZF Friedrichshafen AG (フリードリヒスハーフェン)  
Atelier of the MAJT Residency (リール)
- 2017 Migrant Bird Artist Residence Program, Wuhan Creative Capital (武漢)
- 2019 Migrant Bird Artist Residence Program, Wuhan Creative Capital (武漢)

## 鈴木 崇

Takashi SUZUKI

1971 京都出身  
 1996 アート・インスティテュート・オブ・ボストン写真学科卒業  
 2001-02 デュッセルドルフ芸術アカデミー トーマス・ルフ・クラス研究生  
 現在、京都在住

### 主な個展

2002 「Haut」 Artislong Gallery (京都)  
 2004 「Altus」 The Third Gallery Aya (大阪)  
 2006 「Altus-spatium」 The Third Gallery Aya (大阪)  
 2008 「ARCA」 The Third Gallery Aya (大阪)  
 2010 「BAU」 rep + Super Window Project (京都)  
 2015 「Form Philia」 IMA Gallery (東京)  
 2019 「Though this be madness, yet there might be method in't」 IG Photo Gallery (東京)  
 「みる」 アートカゲヤマ (藤枝)  
 2020 「Quiet Riot」 Media Shop Gallery (京都)  
 2021 「Are you my echo.」 HRD ファインアート (京都)

### 主なグループ展

2002 「Rundgang」 デュッセルドルフ芸術アカデミー (デュッセルドルフ)  
 2003 「2002年度ヤングポートフォリオ展」 清里フォトアートミュージアム (北杜)  
 「DOUBLE SENSE 野村仁 x 鈴木崇」 galerie16 (京都)  
 2004 「コレクション展」 The Third Gallery Aya (大阪)  
 2005 「Art Court Frontier 2005」 アートコートギャラリー (大阪)  
 2006 「写真の現在3：臨界をめぐる6つの試論」 東京国立近代美術館 (東京)  
 2007 「Young Japanese Landscape」 MOYA (ウィーン)  
 2009 「No Man's Land」 フランス大使館 (東京)  
 2010 「Emerging Asian Artists」 Art Gwangju 2010 (光州)  
 「マイ・フェイバリット - とある美術の検索目録／所蔵作品から」 京都国立近代美術館  
 (京都)  
 「Sense Perception」 The Third Gallery Aya (大阪)  
 2011 「Exchange Osaka - Tokyo」 SANAGI FINE ARTS (東京)  
 「着想のユートピア CURATORIAL LIBRARY」 神戸芸術工科大学ギャラリーセレン  
 ディップ (神戸)  
 「Une fenêtre japonaise」 galerie de multiples (パリ)  
 「PACIFIC」 Scion Installation L.A. Gallery (ロサンゼルス)  
 2012 「消息 - Presage -」 HI-NEST BLDG (京都)  
 「Quiet Moments」 The Third Gallery Aya (大阪)  
 2013 「ZINE / BOOK GALLERY ! 2013」 宝塚メディア図書館 (宝塚)

- 2014 「これからの写真」愛知県美術館（名古屋）  
「Coincidental Perception」KUNST ARZT（京都）  
「cognition / recognition」UltraSuperNew Gallery（東京）
- 2015 「kiseki 秘仏本尊十一面観世音像 御開帳記念プロジェクト」観菩提寺正月堂客殿（伊賀）  
「Scotiabank CONTACT Photography Festival 2015」（カナダ、トロント）
- 2016 「オーダーメイド：それぞれの展覧会」京都国立近代美術館（京都）  
「クロニクル、クロニクル！」Creative Center OSAKA（大阪）
- 2017 「クロニクル、クロニクル！」Creative Center OSAKA（大阪）
- 2018 「Ni'homme - summer group exhibition」Ibasho Gallery（アントワープ）
- 2019 「浅間国際写真フェスティバル PHOTO MIYOTA」御代田写真美術館（長野、御代田町）  
「びじゅつじょろん」藤枝市民会館（藤枝）
- 2020 「real SOU #5 "Walking"」茨木市本町センター（茨木）
- 2021 「Sync - eternal commons / ephemeral being」Good Nature Station Gallery（京都）
- 2023 「2023 年東アジア文化都市 全州・現代美術交流展 和／Harmony」Palbok Art Factory  
／Hanbyeok Cultural Center（全州）
- 2024 「Temporary Contemporary Photography」YOD ギャラリー（大阪）
- 2025 「BUTSUDORI ブツドリ：モノをめぐる写真表現」滋賀県立美術館（大津）

## 作品収蔵

- 清里フォトアートミュージアム（北杜）
- 東京国立近代美術館（東京）
- 京都国立近代美術館（京都）

\*\*\*

お問い合わせ：HRD FINE ART

（エイチアールディー・ファインアート）

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊壱町494-1

電話：090-9015-6087（担当：原田）

ウェブ：http://www.hrdfineart.com

Eメール info@hrdfineart.com

